大学との連携による部活動の地域クラブ活動への移行推進について

保健厚生課

1　目　的

部活動の地域クラブ活動への移行推進に当たり、持続可能な地域クラブ活動の運営と大学による地域貢献を目的に、県教育委員会と松本大学が連携し、同大学スポーツ健康学科の学生を中心に、スポーツの指導者を養成する講座を開講する。

中学校部活動の地域移行に係る大学との連携メリットと取組の概要

1　中学校部活動の地域移行に係る大学との連携のメリット

○ 持続可能な地域クラブ活動を推進するため、大学に「地域クラブ活動指導」の科目を開設することは、スポーツ・文化芸術活動を通じた地域に貢献したいと考える学生たちにとって、新たな学びの場を創出することになるほか、課題解決力の修得や自己肯定感の高まりをもたらし、ひいては大学のブランド力向上に寄与することが期待できる。

2　取組の概要

2　地域クラブ活動ゼミナール（講義・演習）予定（前期分）

	月／日	講座内容と講師（予定）
第１回	４／10 （木）	部活動と地域クラブ活動について考える 講師：県教育委員会保健厚生課教育主幹兼学校体育係長　出口　哲朗
第２回	４／24 （木）	これからの地域クラブ活動のあり方について考える 講師：県教育委員会保健厚生課指導主事　土橋　裕樹
第３回	５／22 （木）	スポーツ指導における暴力・暴言・ハラスメント等の防止について 講師：県教育委員会保健厚生課指導主事　上原　雄次
第４回	５／29 （木）	中学生期の心身の特徴とコミュニケーションについて 講師：スポーツ振興課中信教育事務所駐在指導主事　髙木　潤一
第５回	６／12 （木）	スポーツ指導における安全管理と具体的な方法について 講師：県教育委員会保健厚生課指導主事　小山　啓太
第６回	６／26 （木）	熱中症の予防と応急手当の基本等について 講師：県教育委員会保健厚生課指導主事　笠井　佳代子
第７回	７／10 （木）	コンディショニングとスポーツ障害の予防について 講師：(株) Body Conditioning Factory 代表　関　賢一

※ 後期は、実際に地域クラブに出向き指導実習を予定

3　第１回の講義について

（１）受 講 生

松本大学人間健康学部スポーツ健康学科　29 人（新井ゼミ 12 人、本間ゼミ 15 人、他２人）

（２）講義のねらい

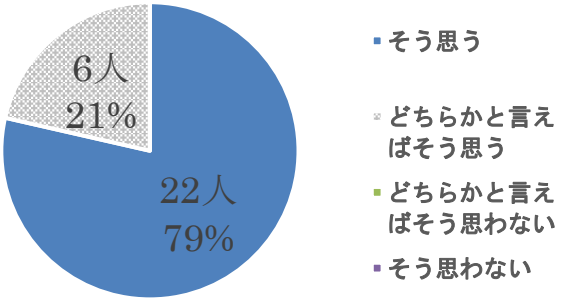
部活動経験を経験してきた学生たちが、自身の経験をもとにしながら部活動における功罪（メリット・デメリット）についてグループ協議をしながら仲間と考えを共有したり、新たな視点に気づ

いたりすることを通して、新たな地域クラブ活動においては、部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展しつつ、新たな価値を創出することが大切だと実感するとともに、部活動の地域移行における様々な課題について理解することができる。

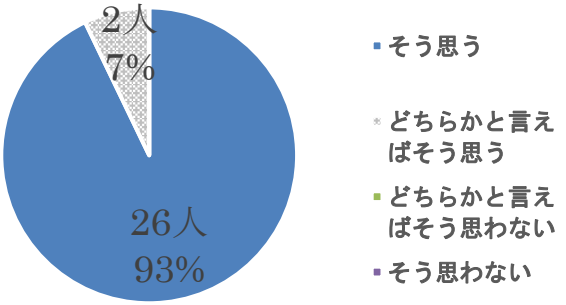
（３）講義後のアンケート結果　　回答数 28（回答率 96.6%）

ア）　講義の内容等について（選択式）

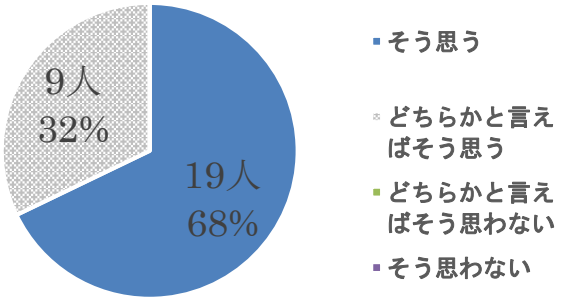
① 内容は興味深いものでしたか（興味・関心）



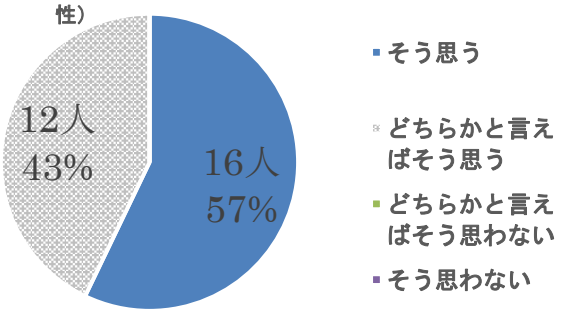
② 講義や説明は分かりやすかったですか（理解）



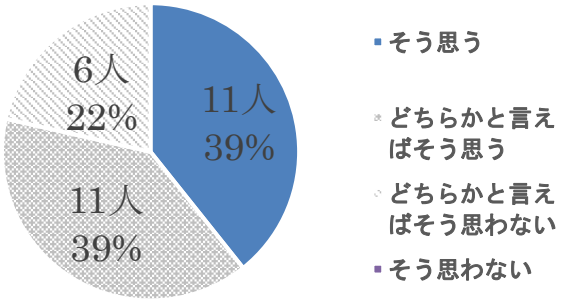
③ 自ら考えたり、判断したりすることができましたか（思考力・判断力）



④ 積極的に参加したり、自分の意見を発表したりできましたか（主体性）



⑤ 地域クラブ活動の指導をしたいと思うようになりましたか（学習意欲）



イ）　参考になったことや疑問に思ったこと（記述式）

【参考になったこと】

・グループワークによって部活動や地域クラブ活動について様々な意見を聞いたこと（８）
・部活動の地域移行に至る背景、目的、県の目指す姿、方向性など（４）
・部活動の地域移行には様々な課題がある反面、メリットもあること（４）
・部活動の功罪は、人や環境によって異なること（３）
・先行している市町村やその取り組み（２）
・地域クラブ活動に移行にあたり、専門性の高い指導のためには予算や人が必要なこと

【疑問やもっと詳しく知りたいこと】

・クラブの運営資金や指導者の手当（だれが負担するのか）（５）

・現在の進捗状況と今後の方向性（３）
・直面している課題とその対策（２）
・先生方の声（部活動をしたいと思う先生はどうなるのか）（２）
・少子化が進む地域での取組み事例
・クラブ設立と会員の募集について
・指導者の育成方法

【今回のゼミや地域クラブ活動への移行について思うこと】
・運営資金や指導者手当についてどうしていくのか（４）
・保護者や地域の負担が大きくなりそう（３）
・課題はあるが、将来的には部活動のスムーズな地域移行が必要（３）
・様々な課題への対応と環境整備を整備するに当たり、課題への対応が必要（３）
・競技志向と楽しみ志向など様々なニーズへの対応や実力差がある中での大会のあり方（２）
・活動場所について生徒もそうだが、指導者の移動手段も考えなければいけない（２）
・教員の負担軽減と専門的指導が受けられる環境になればいい
・少子化が進む地域での取組が今後のヒントになるのでは

４　今後の方向性

（１）松本大学人間健康学部スポーツ健康学科に地域クラブ活動ゼミナールによる検証
（２）スポーツ分野に留まらず、文化芸術分野における地域クラブ活動指導科目の充実
（３）信州大学、長野大学、佐久大学、飯田女子短期大学…等、県内大学・短期大学への拡充
（４）部活動地域移行（地域貢献）に資する大学のリソースを活かした取組アイディアの検討